

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：ONE DROP 代表者職名・氏名：岩見香織
補助事業テーマ	簡易宿泊施設を利用した産後ケア事業
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和3年2月28日
事業の目的	<p>① 産後、母子がいつでも利用できる休息施設として産後ケア施設「ベビママ」を運営し、育児の困難感を軽減させる 医療専門職によるケアを提供し、健やかな子育てを支える</p> <p>② 産後ケアを受ける母親を現在の2倍（施設内で月15名）を目指す</p>
事業の実績(成果)	<p>① 医療専門職による24時間産後ケアを提供。いつでも好きなときに赤ちゃんを預かり、母親がゆっくりと心身を休められる宿泊施設を運営した。食事は、コロナで影響を受けた近隣の飲食事業者からのケイタリングとし、管理栄養士の監修の下で、産後に必要な栄養を考慮した食事を提供した。</p> <p>施設を利用された方からは「ベビママがなかったらどうなっていたかわからない」「ゆっくりお母さんになっていけばいいのかもと思うことができた」「ひとりになって寝たいだけ安心して寝られる」「きちんと育てているのか心配だったけど「愛情いっぱい育てているよ」と言ってもらえて安心した。とても温かく受け入れられていると、私たちが歓迎されていると心から思った」などのお声をいただき、育児の困難感の軽減に寄与できた。価値あるサービスを提供できているという実感はスタッフ全員に共有されており、今後も当該施設運営は続けていきたいと感じている。</p> <p>② 利用者数は延べ12人、月の利用泊数も最大10泊にとどまり、目標数には遠い状況となった。必要な人に届けるマーケティング戦略が課題として残った。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携 京都市内のデパートや赤ちゃん用品店と連携し、産後ケアの認知を図る ・Web集客 動画やホームページ、SNSを活用したWeb集客を強化する ・産院や小児科との連携強化 施設案内を配布し、潜在利用者の取り込みを図る



お預かり風景



食事一例